

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-226324
(P2000-226324A)

(43) 公開日 平成12年8月15日 (2000.8.15)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
A 6 1 K 7/48		A 6 1 K 7/48	
7/00		7/00	K
			C
			W
7/50		7/50	
審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 10 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号	特願平11-337975	(71) 出願人	591267785 関西酵素株式会社 福岡県大野城市仲畑2丁目8番41号
(22) 出願日	平成11年11月29日 (1999. 11. 29)	(72) 発明者	長畑 哲二 福岡県太宰府市通古賀4-5-3-403
(31) 優先権主張番号	特願平10-338815	(72) 発明者	高島 良江 福岡県筑紫野市原田364 メゾン十楽102号
(32) 優先日	平成10年11月30日 (1998. 11. 30)	(72) 発明者	宮崎 智成 福岡県福岡市早良区城西3-11-17-203
(33) 優先権主張国	日本 (J P)	(74) 代理人	100081514 弁理士 酒井 一

(54) 【発明の名称】 清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物

(57) 【要約】

【課題】 肛門周辺部、陰部周辺部等を容易に清浄・清拭することができ、排泄物等によるかぶれ、かゆみ等の炎症や、皮膚のかさかさ感の防止、若しくはこれらの悪化を防止し、皮膚を清潔に保つことができる、安全な清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物を提供すること。

【解決手段】 リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液と、有機酸と、水とを含むことを特徴とする清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液と、有機酸と、水とを含むことを特徴とする清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物。

【請求項2】 リパーゼ阻害能を有する植物抽出液が、エイジツエキス、カンゾウエキス、キナエキス、シャクヤクエキス、ビワエキス、ボタンビエキス、ムクロジエキス、紅茶エキス、ワレモコウエキス、ハイビスカスエキス、アロエエキス、メリッサエキス、タイムエキス、オウゴンエキス、イチョウエキス、スギナエキス、カモミラエキス、クチナシエキス、モモ葉エキス、ホップエキス、ダイズエキス又はこれらの混合物であることを特徴とする請求項1に記載の清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物。

【請求項3】 プロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液が、アロエエキス、ダイズエキス、オオムギエキス、トマトエキス、カッコンエキス、クロレラエキス、ウコンエキス、クマザサエキス又はこれらの混合物であることを特徴とする請求項1又は2に記載の清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物。

【請求項4】 有機酸が、コハク酸、リンゴ酸、クエン酸、酒石酸、乳酸等のフルーツ酸；グルタル酸、アジピン酸、ピメリン酸、フマル酸、グルタミン酸、アスパラギン酸、アスコルビン酸、ピロリドンカルボン酸又はこれらの混合物であることを特徴とする請求項1～3のいずれか1項記載の清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物。

【請求項5】 リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液の組成物中における合計配合割合が0.001～2.0質量％であり、且つ有機酸の組成物中における配合割合が0.001～5.0質量％であることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項記載の清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物。

【請求項6】 界面活性剤、保湿剤、抗炎症剤、殺菌剤、酸化防止剤、紫外線防止剤、キレート剤、pH調整剤、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及びプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液以外の植物抽出液、水溶性溶媒、精油、香料、色素及びこれらの混合物からなる群より選択される1種又は2種以上を更に含むことを特徴とする請求項1～5のいずれか1項に記載の清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、肛門周辺部、陰部周辺部等を容易に清浄・清拭することができ、排泄物等によるかぶれ、かゆみ等の炎症や、皮膚のかさかさ感を抑制、若しくはこれらの悪化を抑制し、皮膚を清潔に保つことができ、特に、乳幼児や介護を必要とする人に有

用な清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、排尿、排便後の排泄物の処理には、通常、トイレトペーパーが使用され、温水洗浄器やウェットティッシュ、洗浄綿等も使用されている。また、乳幼児や介護の必要な人等、オムツを使用している人も同様に、織布、不織布、ウェットティッシュ、洗浄綿等により排泄物を除去したり、温水等で洗浄しているのがほとんどである。しかし、皮膚の弱い人やオムツを使用している人などは、排泄物を除去しただけでは肛門部や陰部周辺部にかぶれ、かゆみ等が生じ、更に皮膚がかさかさになるという問題がある。特に、オムツを使用している場合には、皮膚が排泄物に基づく雑菌と接触している時間が長くなりがちであり、特に問題である。そこで、排泄物による皮膚のかぶれやかゆみ等の悪化を防止するために、いくつかの清浄・清拭剤組成物が提案されている（例えば、特開昭61-205206号公報、特公昭62-4520号公報、特開平4-182423号公報）。しかし、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液を必須成分として使用する清浄・清拭剤については知られていない。一方、化粧類に各種植物抽出液を配合することは従来から知られており、実施されているが、通常、その効果を十分に得るためには多く配合する必要がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、一般に、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液やプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液は価格も高く、しかも、皮膚の弱い人への使用の場合、刺激が強くなる恐れがある。そこで、例えば、毎日数回にわたり使用することが前提とされる清浄・清拭剤や化粧水に用いる場合には、なるべく少ない配合量で、十分な効果が得られる技術の開発が望まれている。

【0004】従って、本発明の目的は、肛門周辺部、陰部周辺部等を容易に清浄・清拭することができ、排泄物等によるかぶれ、かゆみ等の炎症や、皮膚のかさかさ感の防止、若しくはこれらの悪化を防止し、皮膚を清潔に保つことができる、安全な清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物を提供することにある。本発明の別の目的は、配合されるリパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液の配合割合が微量であっても、排泄物等によるかぶれ、かゆみ等の炎症や、皮膚のかさかさ感の防止、若しくはこれらの悪化の防止を効果的に得ることができる清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記課題を解決するため鋭意検討を重ねた結果、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液を、有機酸と共に配合することによっ

て、該植物抽出液の配合量が少ない場合にも、清浄・清拭用や化粧水用として、目的とする効果が効果的に得られることを見出し本発明を完成した。すなわち、本発明によれば、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液と、有機酸と、水とを含むことを特徴とする清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物が提供される。

【0006】

【発明の実施の形態】以下本発明を更に詳細に説明する。本発明の清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物は、例えば、排泄後の清浄に液状で使用したり、噴射器に充填して、噴霧状、ムース状、液状に噴射して使用したり、織布、不織布、綿類等に保持し、清拭や、化粧水として使用することにより、排泄物等に起因する皮膚のかぶれ、かゆみ等の炎症や皮膚のかさかさ感を防止、若しくはこれらの悪化を効果的に防止しうるものであって、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液と、有機酸と、水とを含む。

【0007】本発明に用いるリパーゼ阻害能を有する植物抽出液は、リパーゼ阻害能を有し、且つ植物抽出物を含むエキス等の液状物であれば特に限定されない。例えば、エイジツエキス、カンゾウエキス、キナエキス、シャクヤクエキス、ピワエキス、ボタンビエキス、ムクロジエキス、紅茶エキス、ワレモコウエキス、ハイビスカスエキス、アロエエキス、メリッサエキス、タイムエキス、オウゴンエキス、イチョウエキス、スギナエキス、カモミラエキス、クチナシエキス、モモ葉エキス、ホップエキス、ダイズエキス又はこれらの混合物等が挙げられ、特にカンゾウエキスの使用が好ましい。市販品としては、例えば、エイジツ抽出液、カンゾウ抽出液、キナ抽出液、シャクヤク抽出液、ピワ抽出液、ボタンビ抽出液、ムクロジエキスパウダー(以上、丸善製薬株式会社製)、商品名「シャクヤクリキッド」、「ファルコレックス エイジツ」、「ファルコレックス ピワリーフ」、「ファルコレックス ボタンビ」(以上、一丸ファルコス株式会社製)、エイジツ抽出液、シャクヤク抽出液、ピワ抽出液、ボタン抽出液、油溶性ピワ葉抽出液(以上、香栄興業株式会社製)、カンゾウエキス(小城製薬株式会社製)等が使用できる。リパーゼ阻害能を有する植物抽出液の配合割合は、特に限定されないが、皮膚の弱い人への刺激を考慮して適宜決定することが好ましい。また、所望の効果は、後述する有機酸の配合量によっても作用するので、有機酸の配合量も考慮して適宜決定することができる。好ましくは組成物中に0.001～2.0質量%、特に0.01～1.0質量%の割合で配合するのが望ましい。リパーゼ阻害能を有する植物抽出液の配合割合が0.001質量%未満であり、且つプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液を併用しない場合には、所望の効果が期待できない恐れがあるので、プ

ロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液と併用しない場合には、0.001質量%以上配合することが望ましい。

【0008】本発明に用いるプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液は、プロテアーゼ阻害能を有し、且つ植物抽出物を含むエキス等の液状物であれば特に限定されない。例えば、アロエエキス、ダイズエキス、オオムギエキス、トマトエキス、カッコンエキス、クロレラエキス、ウコンエキス、クマザサエキス又はこれらの混合物等が挙げられる。プロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液の配合割合は、特に限定されないが、皮膚の弱い人への刺激を考慮して適宜決定することが好ましい。また、所望の効果は、後述する有機酸の配合量によっても作用するので、有機酸の配合量も考慮して適宜決定することができる。好ましくは組成物中に0.0001～2.0質量%、特に0.001～1.0質量%の割合で配合するのが望ましい。プロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液の配合割合が0.001質量%未満であり、且つリパーゼ阻害能を有する植物抽出液を併用しない場合には、所望の効果が期待できない恐れがあるので、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液と併用しない場合には0.001質量%以上配合することが好ましい。

【0009】本発明の組成物において、前記リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液の組成物全量に対する配合割合は、通常0.001～2.0質量%、特に、0.001～1.0質量%が好ましい。

【0010】本発明に用いる有機酸の種類は、特に限定されるものではないが、皮膚に対して刺激の少なく、所望の目的をより効果的に得るために、例えば、コハク酸、リンゴ酸、クエン酸、酒石酸、乳酸等のフルーツ酸；グルタル酸、アジピン酸、ピメリン酸、フマル酸、グルタミン酸、アスパラギン酸、アスコルビン酸、ピロリドンカルボン酸又はこれらの混合物等が挙げられる。この有機酸は、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸等の油分を含まない意であるが、本発明の組成物がその目的等に応じてこれらの油分を含んでいても良い。有機酸の配合割合は、特に限定されず、組成物中に、好ましくは0.001～5.0質量%の範囲である。有機酸の配合割合が0.001質量%未満では、前述のリパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液の作用を十分に引き出すことができない恐れがあるので好ましくない。

【0011】本発明に用いる水は、通常、精製水を用いることができる。水の配合割合は、本発明の組成物が粘度の低い液状となるように、他の配合成分との兼合いで適宜選択することができる。通常、清浄・清拭用にする場合には、組成物中に10～98質量%の範囲で配合でき、化粧水用にする場合には、組成物中に、50～98質量%の範囲で配合できる。

【0012】本発明の組成物には、本発明の目的を損ねない範囲において、他の所望な目的等に応じて、通常、化粧料等に配合できる安全な各種成分を適宜組み合わせで配合することができる。例えば、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、ノニオン界面活性剤、両性界面活性剤等の各種界面活性剤；保湿剤、抗炎症剤、殺菌剤、酸化防止剤、紫外線防止剤、キレート剤、pH調整剤、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及びプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液以外の植物抽出液、水溶性溶媒、精油、香料、色素又はこれらの混合物等が挙げられる。これら任意成分の配合割合は、その目的に応じて適宜選択して決定することができる。

【0013】アニオン界面活性剤としては、例えば、アルキル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、スルホコハク酸塩、タウリン誘導体、サルコシン誘導体、アמידエーテルサルフェート、エーテルリン酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテルリン酸、脂肪酸塩、エーテルカルボン酸塩、スルホン酸塩又はこれらの混合物等が挙げられる。特に、スルホコハク酸塩、タウリン誘導体、サルコシン誘導体、アמידエーテルサルフェート、脂肪酸塩、エーテルカルボン酸塩の使用が好ましい。

【0014】カチオン界面活性剤としては、例えば、アルキルトリメチルアンモニウム塩、アルキルジメチルアンモニウム塩又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0015】ノニオン界面活性剤としては、例えば、レシチン誘導体、プロピレングリコール脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビット脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルホルムアルデヒド縮合物、ポリオキシエチレンヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンステロール、ポリオキシエチレン水素添加ステロール、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンラノリン、ポリオキシエチレンラノリンアルコール、ポリオキシエチレンミツロウ誘導体、ポリオキシエチレンアルキルアミン、ポリオキシエチレン脂肪酸アミド又はこれらの混合物等が挙げられる。特に、グリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンアルキルエーテル等の使用が好ましい。

【0016】両性界面活性剤としては、例えば、アルキ

ルベタイン系両性界面活性剤、アルキルアミドベタイン系両性界面活性剤、イミダズリン系両性界面活性剤、グリシン系両性界面活性剤、アミノオキサイド系両性界面活性剤、アシルメチルーβ-アラニン系両性界面活性剤又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0017】保湿剤としては、水溶性保湿剤、油性保湿剤のいずれも使用可能である。水溶性保湿剤としては、例えば、ポリエチレングリコール等の多価アルコール；グルコース、ソルビトール、デキストリン、乳糖等の糖類；コラーゲン誘導体；ケラチン誘導体；トリメチルグリシン等のアミノ酸類；コンドロイチン硫酸ナトリウム、乳酸ナトリウム、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、ヒアルロン酸ナトリウム、α-ヒドロキシ酸、酵母エキス又はこれらの混合物等が挙げられる。油性保湿剤としては、例えば、ヒマシ油、オリーブ油、グレープシード油、カカオ油、椿油、ヤシ油、木ロウ、ホホバ油、アボガド油等の植物油脂類；ミツロウ、鯨ロウ、ラノリン、カルナウバロウ、キャンデリラロウ等のロウ類；スクワラン、流動パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、セレシンワックス、パラフィンワックス、ワセリン等の炭化水素類；ラウリン酸、ミリスチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、イソステアリン酸、ベヘニン酸等の脂肪酸類；セタノール、ステアリアルアルコール、ヘキシルデカノール、オクチルドデカノール、ラウリルアルコール等の高級アルコール；ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、オレイン酸オクチルドデシル、オレイン酸コレステリル等のエステル類；ポリアクリル酸ナトリウム、結晶性セルロース又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0018】抗炎症剤としては、例えば、グリチルリチン酸誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導体、アラントイン又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0019】殺菌剤としては、例えば、塩化リゾチウム、安息香酸塩、ソルビン酸塩、ジヒドロ酢酸塩、パロキシ安息香酸エステル、塩化ベンゼトニウム、フェノキシエタノール、グルコン酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、塩化セチルピリジニウム、ピロクトンオラミン、ジクピリチオン、2, 2, 4-トリクロロ-2'-ヒドロキシジフェニルエーテル、トリクロカルバン、トリクロサン、塩化ベンザルコニウム又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0020】酸化防止剤としては、例えば、ジブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、ビタミンE類、没食子酸プロピル又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0021】紫外線防止剤としては、例えば、4-メトキシベンゾフェノン、オクチルジメチルパラアミノベンゾエート、エチルヘキシルパラメトキシサイナメート、微粒子酸化チタン、微粒子亜鉛又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0022】キレート剤としては、例えば、エデト酸塩、ピロリン酸塩、ヘキサンメタリン酸塩、グルコン酸塩又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0023】pH調整剤としては、例えば、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、リン酸水素二ナトリウム、リン酸水素二カリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウム又はこれらの混合物等が挙げられる。

【0024】本発明の組成物は、清浄・清拭剤若しくは化粧水に、その形態等に応じて公知の方法で配合することができる。

【0025】

【発明の効果】本発明の清浄・清拭用及び化粧水用液剤組成物は、リパーゼ阻害能を有する植物抽出液及び／又はプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液と有機酸を含むので、配合されるリパーゼ阻害能を有する植物抽出液やプロテアーゼ阻害能を有する植物抽出液の配合割合が微量であっても、清浄・清拭剤としての所望な作用を効果的に得ることができる。従って、本発明の組成物は、肛門周辺部、陰部周辺部等を容易に清浄・清拭することができ、排泄物等によるかぶれ、かゆみ等の炎症や、皮膚のかさかさ感の防止、若しくはこれらの悪化を防止し、皮膚を清潔に保つことができ、化粧水としても有用である。特に、乳幼児や介護が必要な人の清浄・清拭用及び化粧水用液剤として有用であり、種々の形態の商品に利用できる。

【0026】

【実施例】以下実施例及び比較例により、本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。なお、表中、POEはポリオキシエチレンを示し、POEPOPDTDEはポリオキシエチレンポリオ

キシプロピレンデシルテトラデシルエーテルを示す。

実施例1～17及び比較例1～4

表1～表3に示す各成分を混合調製し、清浄用液剤を製造した。得られた各清浄用液剤について、パネルにより、肛門周辺部及び陰部周辺部における、紅斑症状の防止・抑制、かゆみの防止・抑制、保湿感について評価した。パネルとしては、オムツを使用しており、且つ肛門周辺部又は陰部周辺部に軽微な炎症を起こしている老人10人及びオムツかぶれを起こしている乳児5人とした。また、評価方法は、各清浄用液剤を噴射式容器に充填し、パネルの肛門周辺部、陰部周辺部にフォーム状に1～5ml噴射し、続いて温水に濡らした綿布でふき取る操作を1日2回1週間継続した後に以下の基準に従って行った。評価結果は以下の基準における平均点で評価した。なお、かゆみの防止・抑制については、老人のみによる評価とした。結果を表1～表3に示す。

【0027】＜紅斑症状の防止・抑制の評価＞

1点：紅斑が非常に悪化した。2点：紅斑が悪化した。3点：紅斑が変わらない。4点：紅斑が抑制された。5点：紅斑が完全に消失した。

＜かゆみの防止・抑制の評価＞

1点：かゆみが非常に悪化した。2点：かゆみが悪化した。3点：かゆみが変わらない。4点：かゆみが抑制された。5点：かゆみが完全に消失した。

＜保湿感の評価＞

1点：皮膚が非常にガサガサする。2点：皮膚がカサカサしている。3点：皮膚の感覚が普通。4点：皮膚がしっとりする。5点：皮膚が非常にしっとりする。

【0028】

【表1】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6	実施例 7	実施例 8	実施例 9
有機酸	コハク酸	0.01	0.5				0.5		
	クエン酸	0.005	0.01	0.2	0.1	0.005	0.2	0.10	0.005
	乳酸		0.01	0.3	0.1		0.01	0.10	
	アスコルビン酸				1.0			1.00	
植物抽出液	シャクヤクエキス				0.05				
	カンゾウエキス	0.005	0.1	0.8	0.05	0.1			
	ビロエキス				0.05	0.1			
	ワレモコウエキス							0.05	
	カモミラエキス							0.05	
	オウゴンエキス							0.05	
	アロエエキス								0.005
	ウコンエキス								
活性剤	クマザサエキス								
	POE硬化ヒマシ油	0.3	0.3	0.3			0.3		0.3
	POEPOPDIIDE				0.5	0.2		0.5	
	テトラメチル-β-ブチラクトン	3.5	3.5	3.5	7.0	5.0	3.5	7.0	3.5
保溼剤	テトラメチル-β-ブチラクトン				10.0			10.0	
	ヒアルロン酸ナトリウム				0.1			0.1	
	コラーゲン					0.05			
	トリメチルグリシン				0.1			0.1	
溶剤	グリセリン	3.0	3.0	3.0	5.0	1.5	3.0	5.0	3.0
	1,3-ブチレングリコール	1.5	1.5	1.5	1.5		1.5	1.5	1.5
	イソブチレングリコール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	殺菌剤	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
香料	香料	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量
	色素	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量
	精製水	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部
	紅茶評価	3.6	3.8	4.2	3.6	4.4	3.6	4.0	3.6
かゆみ評価	かゆみ評価	3.6	3.8	4.0	3.8	4.2	3.4	4.0	3.6
	保湿評価	3.0	3.0	3.0	3.8	3.6	3.0	3.8	3.0

【0029】

【表2】

		実施例 10	実施例 11	実施例 12	実施例 13	実施例 14	実施例 15	実施例 16	実施例 17
有機酸	コハク酸		0.5	0.5					
	クエン酸	0.005	0.2	0.2	0.1	0.5	0.5	0.5	0.5
	乳酸		0.01	0.01	0.1	0.5	0.5	0.5	0.5
	アスコルビン酸				1.0	2.0	2.0	2.0	2.0
植物抽出液	シャクヤクエキス								
	カンゾウエキス								
	ビワエキス								
	ワレモコウエキス					0.1	0.1	0.1	0.1
	カモミラエキス								
	オウゴンエキス								
	アロエエキス		0.8		0.05	0.1		0.1	
	ウコンエキス				0.05				
	クマザサエキス	0.005		0.8	0.05		0.1		0.1
活性剤	POE硬化ヒマシ油	0.3	0.3	0.3					
	POEPOPDTDE				0.5	0.2	0.2	0.2	0.2
	ラウロイルメチルβ-アラニンナトリウム	3.5	3.5	3.5	7.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	ラウロイルメチル酢酸ヘプタイン				10.0				
保湿剤	ヒアルロン酸ナトリウム				0.1				
	コラーゲン					0.05	0.05	0.05	0.05
	トリメチルグリシン				0.1				
溶剤	グリセリン	3.0	3.0	3.0	5.0	1.5	1.5	1.5	1.5
	1,3-ブチレングリコール	1.5	1.5	1.5	1.5				
	イソブレングリコール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	殺菌剤	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	香料	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量
	色素	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量	微量
	精製水	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部	残部
	紅斑評価	3.6	4.2	4.2	3.6	4.2	4.2	4.4	4.4
	かゆみ評価	3.6	4.0	4.0	3.8	4.2	4.2	4.0	4.0
	保湿評価	3.0	3.2	3.2	3.8	3.6	3.6	3.8	3.8

【0030】

【表3】

		比較例 1	比較例 2	比較例 3	比較例 4
有機酸	コハク酸	0.01			
	クエン酸	0.01			
	乳酸	0.01			
	アスコルビン酸				
植物抽出液	シャクヤクエキス				
	カンゾウエキス		0.1		
	ビワエキス				
	ワレモコウエキス				
	カモミラエキス				
	オウゴンエキス				
	アロエエキス			0.1	
	ウコンエキス				
	クマザサエキス				0.1
活性剤	POE硬化ヒマシ油	0.3	0.3	0.3	0.3
	POEPOLYTDE				
	ラウロイルサルベチン酸ナトリウム	3.5	3.5	3.5	3.5
	ラウロイルサルベチン酸ベータイン				
保湿剤	ヒアルロン酸ナトリウム				
	コラーゲン				
	トリメチルグリシン				
溶剤	グリセリン	3.0	3.0	3.0	3.0
	1,3-ブチレングリコール	1.5	1.5	1.5	1.5
	イソプレングリコール	2.0	2.0	2.0	2.0
	殺菌剤	0.1	0.1	0.1	0.1
	香料	微量	微量	微量	微量
	色素	微量	微量	微量	微量
	精製水	残部	残部	残部	残部
	紅斑評価	2.8	2.8	2.6	2.6
	かゆみ評価	2.6	2.6	2.6	2.6
	保湿評価	2.4	2.6	2.6	2.6

【0031】実施例18～22

表4に示す各成分を混合調製し、清浄用液剤を製造した。得られた各清浄用液剤について、パネルにより、肛門周辺部及び陰部周辺部における、紅斑症状の防止・抑制、かゆみの防止・抑制、保湿感について評価した。パネル及び評価基準は実施例1～17と同様である。評価

方法は、清拭用液剤10mlを不織布に含浸させ、パネルの肛門周辺部、陰部周辺部を清拭する操作を1日2回1週間継続して行った。結果を表4に示す。

【0032】

【表4】

		実施例 18	実施例 19	実施例 20	実施例 21	実施例 22
有機酸	クエン酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	グルタミン酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	アスコルビン酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
植物抽出液	シャクヤクエキス	0.01				
	カンゾウエキス	0.01			0.01	0.01
	ビワエキス	0.01				
	ワレモコウエキス		0.01		0.01	0.01
	カモミラエキス		0.01			
	オウゴンエキス		0.01			
	アロエエキス			0.01	0.01	
	ウコンエキス			0.01		
	クマザサエキス			0.01		0.01
活性剤	POE硬化ヒマシ油	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	ラウロイルメチル-β-アラニンナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	トリメチルグリシン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
溶剤	イソブレングリコール	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
殺菌剤		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
香料		微量	微量	微量	微量	微量
色素		微量	微量	微量	微量	微量
精製水		残部	残部	残部	残部	残部
紅斑評価		4.0	4.0	4.0	4.2	4.2
かゆみ評価		4.0	4.2	4.0	4.0	4.0
保湿評価		4.0	4.0	4.2	4.0	4.0

【0033】実施例 23～26 及び比較例 5
表 5 に示す各成分を混合調製し、化粧水を製造した。得られた各化粧水について、パネルにより、肛門周辺部及び陰部周辺部における、紅斑症状の防止・抑制、かゆみの防止・抑制、保湿感について評価した。パネル及び評価基準は実施例 1～11 と同様である。評価方法は、パ

ネルの肛門及び陰部周辺部を温水で洗淨した後、化粧水 1～3 ml を塗布する操作を 1 日 2 回 1 週間継続して行った。結果を表 5 に示す。

【0034】

【表 5】

		実施例 23	実施例 24	実施例 25	実施例 26	比較例 5
酸 抽 出 液	アスコルビン酸	2.0	2.0	2.0	2.0	
	ビワエキス	0.5				0.5
	ワレモコウエキス		0.5			
	アロエエキス			0.5		
	クマザサエキス				0.5	
活性 剤	POE硬化ヒマシ油	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
保 湿 剤	ヒアルロン酸ナトリウム	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	コラーゲン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	トリメチルグリシン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
溶 剤	グリセリン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	1,3-ブチレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
殺菌剤		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
香料		微量	微量	微量	微量	微量
色素		微量	微量	微量	微量	微量
精製水		残部	残部	残部	残部	残部
紅斑評価		4.4	4.4	4.2	4.2	3.0
かゆみ評価		4.4	4.2	4.4	4.4	3.2
保湿評価		4.6	4.6	4.6	4.6	4.6

フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁷

A 6 1 P 17/00

識別記号

F I

A 6 1 P 17/00

テーマコード (参考)